

ユネスコ無形文化遺産登録に向け 全国山・鉾・屋台保存連合会総会八代大会



▲八代で開催された「全国山・鉾・屋台保存連合会総会八代大会」

11月22日、やつしろハーモニーホールで「全国山・鉾・屋台保存連合会総会八代大会及び祭屋台等製作修理技術者会研修会」が開催されました。

総会では、平成28年度事業計画(案)などすべての議案について話し合い承認。また、「祭屋台等製作修理技術者会研修会」では、八代妙見祭保存振興会の濱大八郎会長が「八代妙見祭の継承と活性化」という演題で講演を行い、八代妙見祭の笠鉾についての説明や継承の取り組みについて語りました。

その後、総合体育館小アリーナに場所を移して交流会が行われ、秀岳館高校の生徒による伝承芸能「雅太鼓」、中嶋町獅子舞保存会が「獅子舞」を披露し、全国から集まった各団体が交流を深めました。

下水道施設の被災に備えて 日本下水道事業団との災害支援協定締結式



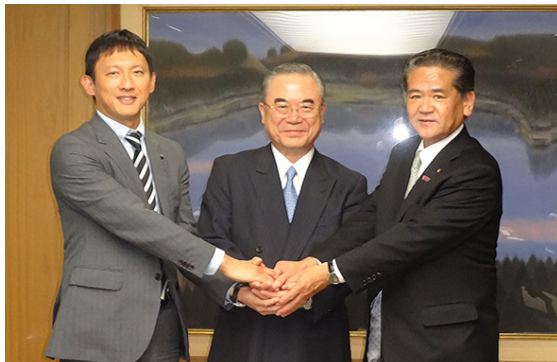
▲締結後、握手を交わす同事業団の堤清九州総合事務所長(左)と中村市長

11月21日、鏡支所で日本下水道事業団の関係者3人と中村博生市長が出席して、「八代市下水道施設に係る日本下水道事業団との災害支援協定」の締結式が行われました。

この協定には、災害発生時に同事業団が行う災害支援に関する基本的な事項が定められており、地震や集中豪雨などにより下水道施設が被災した場合は、緊急支援を受けることが可能となりました。

中村市長は「今回の締結は力強く感じられるとともに、災害に強いまちづくりを推進していきたいと思えます」とあいさつ。同事業団の堤清九州総合事務所長は「災害活動で培ってきた経験やノウハウなどを生かし、精一杯お力添えをしたい」と語りました。

食品関連産業集積の起爆剤に期待 児湯食鳥立地協定調印式



▲左から小野泰輔副知事、渡部博行代表取締役社長、中村博生市長

11月30日、宮崎県に本社を置く畜産食品製造業の児湯食鳥の渡部博行代表取締役社長が熊本県と八代市との立地協定を締結する運びとなり、県庁で調印式が行われました。今年度、本市としては2社目となります。

同社八代事業所の食肉加工処理工場移転新設は、県の工業団地である八代外港工業用地内への立地であり、地元を中心に100人の新規雇用を予定しています。

中村博生市長は「本市では県と密に連携をとりながら、南九州における交通の要衝としてのポテンシャルを活かした、くまもと県南フードバレーの取り組みを推進しており、今回の工場立地が食品関連産業集積の大きな起爆剤となることを期待しています」と述べました。

安全・安心な再生可能エネルギーの活用 木質バイオマスボイラー点火式



▲地下サイロに木質チップを貯蔵する木質バイオマスボイラー

東陽交流センター「せせらぎ」横に木質バイオマスボイラーが完成し、11月29日、中村博生市長や同センターを運営する東陽地区ふるさと公社の永原辰秋代表取締役、施工業者などが出席し、同ボイラーの点火式が行われました。

同ボイラーは、本市の豊富な森林資源を木質バイオマスとして有効活用し、地球温暖化防止への貢献や、地域循環型の持続的なエネルギー供給体制の構築に向けて整備されたものです。太陽光発電設備も整備されており、両設備により年間623.64tの二酸化炭素を削減できます。

中村市長は「再生可能エネルギー施設が増えれば多くの二酸化炭素を削減することができ、地球温暖化防止につながると思う」と語りました。

桂伸三の落語に大笑い 桂伸三落語会



▲「元犬」を話す桂伸三さん

11月25日、桂伸三落語会が昭和小学校で開催され、児童や保護者など約100人が参加しました。

落語家の桂伸三さんが、手ぬぐいで焼き芋を食べる様子や扇子で蕎麦を食べる様子を表現するなど、落語について分かりやすく説明し、本来の落語を披露すると、会場は笑いの渦に包まれました。また、寄席で叩く「一番太鼓」と終演時に叩く「追い出し」を披露。「ドン、ドン、ドンと来い」と聞こえるように叩く太鼓と、「出てけ、出てけ、出てけ」と聞こえるように叩く太鼓に、子どもたちは言葉のように聞こえると話していました。

きれいな花が咲きました せせらぎ水路植栽・美化事業



▲花が咲き始めたせせらぎ水路

市立第一中学校北側のせせらぎ水路横に、ピオラやパンジーなど、約10種類2400本の苗が花を咲かせ、通行人の目を楽しませています。

これは、八代ロータリークラブが地域奉仕活動の一環として実施しているもので、第一中学校の生徒や先生を合わせた約150人が11月16日に植栽したものです。植栽した時には、まだ花は咲いていませんでしたが、10日もすると、きれいな花が咲き、せせらぎ水路を彩りました。同クラブの岩橋恵一さんは「きれいな花を見て、気持ちよく散歩してもらいたい」と話しました。

泉のお茶でむし歯予防 うがい用お茶贈呈式



▲贈呈に訪れた茶業振興協議会の会員や関係者ら

11月15日、泉町茶業振興協議会の上田精一会長ら5人が市役所鏡支所を訪れ、泉町産のお茶200kgを中村博生市長へ贈呈しました。

お茶に含まれるカテキンが口内雑菌の繁殖を抑える効果や抗ウイルス作用があると言われていることから、お茶の産地である泉町の同協議会から、毎年、うがい用として市内の児童生徒園児に贈られているもので、今回で5回目です。

上田会長は、「お茶には、虫歯予防やインフルエンザ対策にも効果があると言われていす。子どもたちの病気の予防に役立てたら幸いです」と語りました。

地域緑化の普及・推進を図る 平成28年度 八代地域植樹活動



▲記念樹のソメイヨシノを植える

12月3日、水無川ほとりの里公園（妙見町）で八代地域植樹活動が行われ、緑の少年団や八代地域みどり推進協議会関係者ら約50人が参加しました。

これは地域緑化の普及・推進を図るとともに、森林の働きを未来に引き継ぎ、ふるさとの自然を愛する心を養うことを目的に、毎年八代地域内で場所を変えて実施されています。

太田郷小6年の松田愛奈さんと同小5年の大西翔也さんが「これからも森とふれあい、森づくりに参加していくことを誓います」と誓いの言葉を述べた後、記念植樹を行いました。

多年に渡る功績を称えて 厚生労働大臣表彰



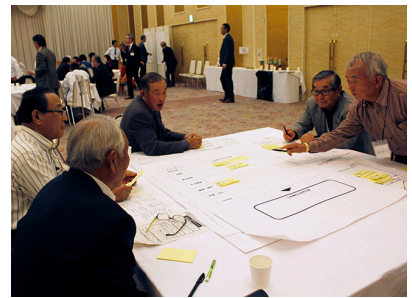
▲感謝状を授与した宮崎真知子さん

今年度、婦人保護事業関係者のうち、多年に渡りその職務に精励し、その功績が顕著であると認められる全国154人に対し、厚生労働大臣から表彰が行われ、本市では婦人相談員の宮崎真知子さんに感謝状が授与されました。

宮崎さんは本市婦人相談員として11年以上に渡り、年間300件以上の相談に対応。また、婦人相談員の経験を生かし、本市の女性の人権についての意識啓発のため、人権啓発講座で講師として活動している功績が認められました。

宮崎さんは「今後も今までの経験を生かし、市民のために貢献していきたい」と語りました。

10年後の八代市を考えて やつしろまちづくりカフェ



▲八代市の姿について意見交換する参加者

11月27日、八代グランドホテルで「第3回やつしろまちづくりカフェ」が開催されました。

これは、平成30年度からの次期総合計画の策定にあたり、市民の意見を反映させるためにカフェのようなリラックスした雰囲気の中で地域の魅力や課題を話し合い、これからの「やつしろ」について考えようというものです。

今回は、これまでの話し合いを踏まえて、政策分野ごとに意見を交わし、10年後の八代市がどのような姿になってほしいかを、キャッチフレーズやキーワードを交えながら発表し、意見を交換しました。



100歳おめでとうございます



坂田 テルさん
(大手町)
大正5年12月11日生

熊本市南区土河原町に8人きょうだいの長女として生まれ育ったテルさん。結婚を機に八代に移り住み、3人の子宝に恵まれました。運動が得意で、若い頃は陸上の選手として活躍しました。長寿の秘訣は「よく食べ、よく働くこと」。



上田 タツさん
(鏡町)
大正5年12月8日生

植柳町に二人姉妹の次女として生まれたタツさん。95歳まで得意料理の煮しめや山菜おこわなど自分で作っていたそうです。現在は施設に入所しており、普段は入所者と話しをして過ごし、時には冗談も交えて場を和ませています。長寿の秘訣は「よくよしないこと」。



小車 ミサヲさん
(宮地町)
大正5年11月29日生

宮地町に6人きょうだいの長女として生まれ育ったミサヲさん。男4人の子どもたちのために、卸売りの行商として、車で熊本市へ出向き、お菓子を仕入れては地元の商店に運んでいました。長寿の秘訣は「体が丈夫で健康に過ごせていること」。



深田 重則さん
(田中町)
大正5年11月15日生

若い頃は鉄工の技術者として、炭鉱の機械やポンプの製作に携わっていた重則さん。40歳頃からの趣味は盆栽と植木で、最近はずわりに精を出しています。長寿の秘訣は「無理しない程度に運動すること」。

八代産晩白柚でリラックス 日奈久温泉 晩白柚風呂



▲期間中、300個の晩白柚を使いおもてなし

晩白柚の本格的収穫に入るこの時期に、毎年日奈久温泉旅館で晩白柚を湯船に浮かべる晩白柚風呂が温泉旅館の11旅館で1月末まで実施されます（一部を除く）。
12月6日には、地元の住民を招いて、報道関係者向けの撮影会が行われ、参加者は「晩白柚の香りがとても良い。皆さんにも晩白柚風呂に入っていたきたい」と話しました。
同組合の松本啓佑組合長は「晩白柚を入れることで肌がスベスベし、香りも良い。今年には熊本地震もあったので、被災者の方々に入っていたきたい、心も体も癒やしてもらいたい」と語りました。

学生力で地域興し 熊本県立大学里山カフェ



▲焼きたてのピザは子どもに大人気

12月3・4日、東陽町の坂より上公民館で、県立大学の学生が里山カフェを開き、多くのお客さんと賑わいました。
これは、中山間地域におけるコミュニティの活用と食を通じた地域振興策（6次産業化）を研究するため、市が委託したものです。
カフェでは、「しょうがきんぴらピザ」や「しょうが焼バーガー」など地元食材にこだわったメニューが並び、中でも手作り窯で焼いたピザ幅広い年齢層に好評でした。また、来場者からは、定期的な開業して欲しい、自然がいっぱいで癒やされるなどの声も聞かれました。

すべての差別をなくそう 人権子ども集会フェスティバルinやつしろ



▲フィナーレは参加者全員でちなみ音頭

12月3日、市立第一中学校で人権子ども集会・フェスティバルinやつしろが開催され、市民や市内の児童生徒、関係団体など約1700人が参加しました。
ステージでは歌や劇など、いろいろな表現活動をとおして差別をなくしていこうとする取り組みや、人権に関する作品などの展示や活動の紹介もあり、楽しく人権について学習することができました。
ステージ発表終了後は、参加者全員で本町アーケードを中心にパレードし、人権についてアピールしました。